

《名前(性)》

坂出さんさん便り



2018年3月

第3号

《名前(性)》、《さんごちは

年々、自然現象が極端になってきているような気がします。ビックリするような大雪や嵐のような風に驚いています。でも、いつものように水はゆるみ、風はやわらかくなって、待ち望んでいた春がやってきました。

そして、オリンピックやパラリンピックでの若者たちの活躍に感動し、テレビの前で何度も涙を拭いていました。

新しい時代は十代、二十代という若者たちが大人に伍していや飛び越えて偉大なことをやり遂げる時代なのかもしれません。

と、同時に先人たちが培った技術や、「しづをしっかりと守り、伝えることを忘れないようにしたいものですね。

念ずれば、花ひらく (坂村真民)

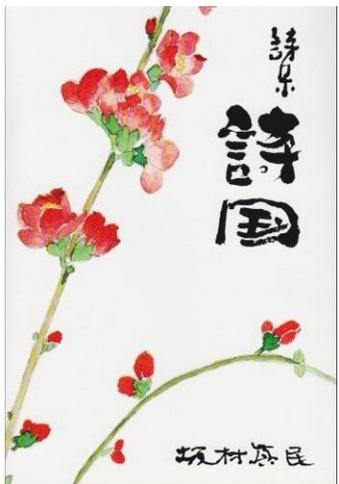
念ずれば 花ひらく
苦しい世 母がいつも口にした
「おじいちゃんを わたしがついにいなかから
くたえようになった
そつこそのたび わたしの花がふじや
らつこつこつ ひらいていった

母は三十六歳で未亡人になった。それから母の悪戦苦闘の歴史が始まったのであるが、私の読んだ『女の一生』という本と同じように、母の一生も多事多難の連続であった。「念ずれば花ひらく」これは、そつこした母の念仏といってもよい自己激励の言葉であり、また遺言とおひらきの子たちを育てあげようとする、悲願の念誦であったのだろう。(サンマーク出版 随筆集念ずれば花ひらくより)

坂村真民は、十八歳からずっと短歌を作り続けてきたのですが、戦後の混乱する時代の中で自分の生き方に疑問を持ち、短歌では表現しきれない想いを「詩」という形で表現するようになりました。

昭和二十四年頃から、家族の生活や自分の生き方を「詩」として書き留めるようになり、高校の教員をしながらコツコツと詩作を続け、九十七歳で亡くなるまでに約一万篇の詩を残しています。

「念ずれば、花ひらく」の詩は多くの人々から愛され、海外を含めて八百基以上の詩碑が全国に建てられています。



同封のチラシは
倫理法人会主催の
セミナーですが、
どなたでも無料で
参加出来ます。坂
村真民記念館西澤
孝一館長のお話を
是非、聴いてみて
ください。



発行元

香川県坂出市中央町8-23
有限会社 太陽商会

坂出さんさん便り 編集部

Tel 0877 (46) 5839

十七歳の起業家社長 楠田亘(くすだわたる)さん

香川高等専門学校1年生の時に、車イスに取り付けて後方を確認する装置「Shippo(シッポ)」を開発した楠田亘さん十七歳。昨年、5月に障害者向けの製品開発と教育事業を行う会社「フレップテック」を立ち上げた。

小六の時から突然不登校になり、医師から発達障害と診断された。そんな中、当時の先生は科学体験発表会に出品したレポートを全校生徒の前で発表しては、と勧めてくれた。「いざやってみたら拍手喝采。人間は誰でも凹凸があって、得意な部分を見つければ自分で悩んでいた些細なことなんてみんな忘れるんだ」と吹っ切れた。

今、障害者向けの製品を作るのは、昔の自分のように、「人と違うことで引け目を感じて欲しくない」それを技術で後押ししたいという思いがあるからだという。また、エンジニアリングだけでなく、マネジメント力まで身につける、新たな教育の場も提供する。



由佐紹二

作者のひとりごと

十七歳の起業家、楠田亘さんのお話を聞いた。「人工知能は将来の人間の仕事をうばうものかもしれませんが。そんな人工知能を味方にして、香川から世界に羽ばたく人材を作るお手伝いがしたい。子供たちがゲームに1時間、2時間も時間を使うのはもったいない、それを使ってなにかを作り出す喜びを、子供たちに教えてあげたら、子供たちは大人たちが想像もしないものを作っていきますよ」。産業革命、楠田さんにとっては十七世紀のそれではなく、今が産業革命の始まりだという。幕末の天才思想家橋本左内は、きっとこんなひとだったろう、と六十五歳の私は思う。